

新型コロナウイルス感染拡大の影響及び対応に関する

鳥取県内の NPO 等への緊急アンケート 結果報告書

回答数：89件

対象：鳥取県内の NPO 法人及び市民活動団体

実施期間：2020年4月7日（火）～4月17日（金）

実施方法：鳥取県内の NPO 法人に調査票を送付した。また、とっとり県民活動活性化センターのウェブサイト、facebook 上にウェブフォームを開設したほか、鳥取県令和新時代創造県民運動メールマガジンで情報を発信し、その他の法人及び任意団体からの回答を受け付けた。

実施主体：（公財）とっとり県民活動活性化センター

調査概要

- ・鳥取県内の89の団体から回答を得た。そのうち NPO 法人は61団体（69%）、任意団体は25団体（28%）だった。
- ・75%の団体の活動に現在影響が出ており、11%は今後影響がでるだろうと回答した。最も多く影響がでているのは「イベント・講座等の中止・延期、施設の閉所等」で、続いて「参加者、施設の利用者の減少」、「実施方法や施設の運営方法の変更」であった。
- ・組織の運営や法人経営に影響が出ていると回答した団体は47%、今後影響影響がでるだろうと回答した団体は38%だった。また、影響が出ている具体的な内容の42%が「理事会・総会等の実施」、次いで「人件費の支払い」が20%であった。

1. 回答数

89件の回答が寄せられた。

2. 回答者の属性

（1）法人種別

任意団体	25 (28%)
NPO 法人	61 (69%)
一般社団・財団	2 (2%)
無回答	1 (1%)
n=	89

(2) 活動地域

鳥取県東部	32
鳥取県中部	9
鳥取県西部	26
県全域	13
県内及び県外	8
無回答	1
n=	89

(3) 活動分野（複数回答可）

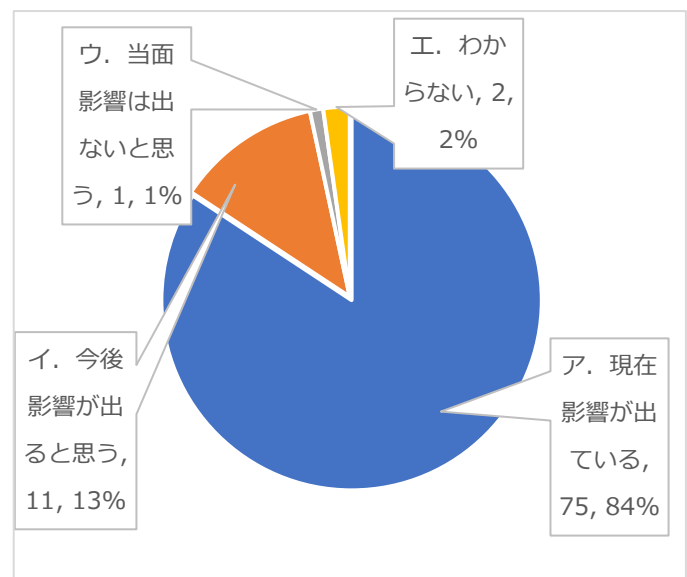
まちづくり・地域づくり・中山間地域支援	32
障がい者支援	27
学術・文化・芸術・スポーツ。社会教育	26
子どもの活動支援（こども食堂を除く）	24
循環型社会・環境保全	12
観光振興	12
高齢者支援・介護事業	9
農業・林業・漁業・経済・産業振興	8
移住定住	7
学童保育等子育て支援（こども食堂を除く）	3
国際協力	3
こども食堂の運営	1
その他	8

4. 回答内容

(1) 75%の団体の活動に現在影響が出ており、11%は今後影響がでるだろうと回答した。最も多く影響がでているのは「イベント・講座等の中止・延期、施設の閉所等」で、続いて「参加者、施設の利用者の減少」、「実施方法や施設の運営方法の変更」であった。

■活動や事業、利用者等に影響が出ていますか。

ア. 現在影響が出ている	75 (84%)
イ. 今後影響が出ると思う	11 (13%)
ウ. 当面影響は出ないと思う	1 (1%)
エ. わからない	2 (2%)
n =	89



■「現在影響が出ている」を選択された方にお尋ねします。具体的な影響の内容を教えてください。 (複数回答可)

活動・事業で「現在影響が出ている」具体的な内容 (複数回答可)	
イベント・講座等の中止・延期、施設の閉所等	58 (79.5%)
イベント・講座等の参加者、施設の利用者等の減少	24 (32.9%)
イベント・講座等の実施方法や施設の運営方法の変更	23 (31.5%)
商品・有料サービス等の売上・受注の増加	19 (26%)
活動・事業を行うためのスタッフ確保の困難	10 (13.7%)
物品・食材等の不足、入手の困難	10 (13.7%)
イベント・講座等の参加者、施設の利用者等の増加	2 (2.7%)
商品・有料サービス等の売上・受注の増加	2 (2.7%)
その他	6 (8.2%)

〈活動や事業への具体的な影響の内容〉

【事業の中止・延期】

夏までのイベントをすべて中止とした。
計画していたイベントの中止
弊会の総会記念講演の講師依頼を行い、一時は了承して頂いたものの、断られ総会記念講演が中止となった。
出店予定イベントの中止
イベントが延期となった。今後も延期の可能性がある。
イベントが開催できない
毎月の定例会（相談会）や理解啓発やストレスマネジメント等の講演会を休止または延期しています。様々な悩みを抱える人達を支えたり元気になる為のイベントが出来ません。
3月から定例会（月2回）を中止。（参加者に障害者や高齢者が多い為）
5月に予定していた総会を書面総会に切り替え、記念映画上映を延期としました。また、毎月実施しているこどもの居場所の実施見通しが立たず、4月は中止としました。5月以降も中止となることが予想されます。
不特定多数の参加者を募集して行う体験、教室等の中止
卒園式・入園式の参加者の制限、謝恩会の会食中止など。
スポーツプログラムの全面中止。5月開催予定の一大イベント中止。
各種講座を中止(当面4月開催分) 空き家のリフォーム発注が設備部品の不足により遅れる見込み
法人が運営しているゲストハウス、食事処の休業
福祉有償運送の利用を制限し感染予防を行っている
3月7日予定の講座を中止。
予定していた事業の延期や中止。
春のイベントが中止になり、秋の事業の広報、募集活動が出来なくなった。参加者募集も出来ず、開催が危ぶまれている。秋のイベントは一応開催方向で準備は進めようと思うが、中止になった場合、補助金はどうなるのか、印刷物の作業を中断している。
当法人主催の3月以降の研修会、イベントをすべて中止。今後の開催についても目途が立たない状況
大会の中止、日々の教室の中止
移住定住相談窓口の縮小、各種イベントや会合の中止・延期
毎月（大学病院内）のバザー中止。
営業活動ができない
講演の中止を検討している。総会の開催が困難。
一切の活動の中止。自粛。
講座やイベントの中止
昨年、依頼をいただいていた講演について中止となった。
講座の中止・延期
毎年実施している集会等のスケジュール調整

自然エネルギー学校の開催や他県小水力発電所研修・見学の（中止）延期
イベント、教室等の中止
ソーシャルグループ指導の中止
自主イベント中止
高単価の作業がなくなっている。ヘルシー事業部の学校給食の作業もなくなっている。
県の委託事業（2日間）の直前中止
施設を4月14日から5月6日まで臨時休館とし、その間の講座、イベントを中止した。
飲食店の閉店
小中学生、地域住民に募集をしている、野菜づくり道場の開設（農業の後継者づくり）の開設を予定しているが新型コロナウイルスのため開設を考えている。
ウィルス感染防止のため、施設を休館している。
まちづくり協議会事業 1. 敬老会の中止 2. 寿会研修旅行の中止 3. 文化祭の中止(伝統芸能継承) 4. 共助交通の推進会議の中止 5. まちづくり協議会総会の中止 6. 研修旅行中止 7. スーパーボランティア支援事業(河川の草刈り)の開催日未決定 8. 協働型ボランティア支援事業実施日の未決定 9. 各種部会の開催未決定 ①昨年度事業の振り返り ②新規事業の立ち上げ 10. 施設利用(公民館等)制限

【利用者の減少】

イベント・講演会等の中止にともない、イベント等の託児が減少した。
音楽イベントの中止、展覧会来館者の減少（ほぼ0）

【実施方法の変更】

定期的に来ることができず、編集会議をオンラインのみにしていくことを検討していますが、会議システムに支払う予定外の出資があります。また、ウェブの「今月はわたしコレ行きます！」を5月から「今月はわたし家でコレします！」というコンテンツに変更をすることにしたため、そのシステム変更に時間を要しています。さらに、今年度予定していた人が集まって実施する講座やワークショップは日程を決めかねています。
障がいのある方が利用されている就労継続支援B型を行っていますが、作業内容を喫茶から内職へ変更した。
放デイでは、公共施設利用が出来なくなり、事業所内での活動等に変更しています。
セミナーを縮小（スタッフのみ）

【収入減】

予定していた定期的イベントが開催できず収入減となっている
イベントの中止により無収入
試食販売活動は売上90%ダウン、全く見向きしてくれない。
イベントがなくなって、バザーの出店ができなくなって、収入が減少している。
イベントの参加で、売上を少しでも増加をして利用者さんの工賃向上に繋げていましたが、イベントが無くなり製造しても出荷する所が減った。

受託している指定管理施設の閉館により、施設を活用して料理・弁当を作成している団体が利用できなくなり、施設利用料の収入減となっている。
製造販売している商品の販売店が休業となり止まっています。家賃、人件費等の固定費の支払いが出来なくなり継続が難しくなっています。
商品等の売上・受注の減少
委託販売先の客数減や休業に伴う売り上げ減。内転の受注減による売り上げ減。（支払い工賃の減につながる。）
自主製品を作っても販売するところがなくなり、今後売り上げが困難になると思われる。
市の補助企業の縮小、
当法人運営共同作業場の売上減
減収

【イベント開催等への不安】

ボランティア派遣やインターンシップなど大学生が動くことへの懸念、感染リスク
通常総会、講演会を開催予定ですが、非常に不安です。

【判断できない】

約20団体等の後援も取り付け、案内ちらしの印刷直前まで進めて4月25日のイベントを中止。今後の事業計画の進め方を判断できかねる。
イベント企画を延期するかどうか、時期が見通せない。
日々状況が変化する中で、先が見えず、事業の計画や予算立てができないでいます。
参加者が見込めないため、大会を延期したり、活動自粛により大会を中止が発生している。大会の延期や中止の判断に迷い、判断時期も悩ましい。
予定していたイベント等を5月中頃までいったん中止としました。イベント事業部分の収益はゼロとなりました。また、5月以降のイベントに関しても予定してもよいか、まだ数カ月まで様子を見てからのほうがよいのか判断に困っています。

【人材確保が難しい】

コロナリスクによる人材確保が厳しい

【物資不足】

マスク・消毒液の不足。
商品の材料不足。物品不足。
施設利用者や従事者の感染リスク、消毒・マスク等不足による衛生管理の困難
マスクの着用を義務付けているが、マスク、体温計等必要なものが購入できない。

【活動場所】

公共施設を会場に活動していたので、現在活動する場所がありません。
主に活動をしている場所が、コロナウィルスの関係で利用できなくなっている。

事務作業等に利用しているセンターの閉所
障がい者福祉事業所自体コロナの影響を受け利用できない状況。

【利用者等の心のケア】

出店予定のイベント中止、受託作業の大幅な減少、通所しておられる利用者様の中には感染症に対する強い不安感を持っておられる方も
利用者の精神的動揺

【その他】

子ども食堂を実施しているところが少なく、そこに対しての支援やサポートが不十分
3月末で活動を止めているため影響は出ないと思われる。
家族が自宅で過ごすこととなり（要介護）、介護者が必要となり、休む
医療・介護・福祉事業に於いても利用者が減少しており、今後経営への影響が懸念される。
自宅待機できる方の通所制限が市から届いている。
会場の変更、昼食のあり方等
利用者家族の帰省による出勤自粛

〈活動や事業において、工夫していること〉

【新たに始めた支援活動等】

市内の学校休業となった3月中は、ちいさいおうちを毎日開放していました。世話人をはじめ、会員ではないけれどちいさいおうちの活動に賛同してくださる地域の人々が子どもたちのサポートを引き受けてくださいました。
3月中に実施予定だったワークショップを急遽オンライン講座に変更。4月以降の編集会議をオンライン化とする予定。また、ウェブの「今月はわたしコレ行きます！」を5月から「今月はわたし家でコレします！」というコンテンツに変更。
バザーに参加できない分、今必要な商品の製作・販売。（布マスク等）
県外からの移住相談者には広報紙（誌）を送ったり、メール等でフォロー

【Web会議等の活用】

実行委員会等の会議はweb上で行っている
ネットでの交流会や講演会を検討していますが、どれだけの参加者があるか正直不安です。みんながパソコンやネット環境に強いとは限らないので...
検温など体調チェック、派遣ルール、オンライン会議への移行
リモートワークにて定期会議、雇用者に関しては休業対応
メールでの情報のやり取り
web開催
webを活用した説明会など。

対面式のイベント等が中心だったため、オンラインで工夫できないか検討しています。また、自宅外出を控える方も増えてきたので、小さな子どもと一緒に限られた空間で過ごす大人のストレス（子どもも）や孤立感が高まらないだろうかと懸念していることもあり、愚痴やイライラを吐き出せる場として SNS を活用し始めました。

web 販売を重点をおいて協力店での販売を始めています。製造は人員を減らして継続していますが材料の入手が難しくなっています。事務処理は在宅で行っています。

関係者の打ち合わせなどを極力メールまたは、電話などで行っている。

会議等は TV 会議などで対応

【スケジュールの変更】

事態の収束まで、イベント開催を見送り、夏からの準備スタートで間に合うものにプランを変えている。

来年に延期

会計年度の半期以上、何もイベント開催できない場合は、翌会計年度に組み込むことと理事会で承諾を得た。

【活動場所の変更】

現在は屋外のみ活動を行っている

3密を避ける為、外（畑内）で集会、講義を工夫しかけている。

【支援策、支援物資等】

鳥取県からマスク 100 枚を提供してもらったほか、地域の郵便局から消毒液 1ℓ を寄付してもらった。

リタリコの無料の支援ツール利用し、放デイの活動で使っています。

現在県の補助金を申請中である。

学童保育に各企業よりおにぎり、おやつ等の支援をいただいた。

在宅支援の届出

マスクが少ないので、マスクインナーを使用して、マスク減少に努めている。県からのマスク支援を受けた。

地域からの支援

直接販売～新しい商品と販路の開拓。個人的、スポット的だが販売協力を得た。新しい受注（受託加工）の開拓。

【活動するうえでの意識・ルール】

手洗い、うがい、マスクの着用、消毒

公園は利用するが、遊具は使用しない。手洗い・うがいの徹底。

子ども体操教室では、会場の換気、器具の消毒、参加者の手消毒等を実施しながら行っている。

感染防止をする為に、自宅と作業所の往復で、県外の人他と接触した時は最低 7 日間の自宅待機、うがい手洗い、マスク、消毒、熱等を徹底しています。

休館までは利用者に連絡先の記入、マスク着用などをお願いし、他の団体と交わらないように入室制限を行った。

事務所内の感染予防策

だれでもどこでも感染のリスクがある以上、これまでと同じやり方では開催できません。

時間や回数の制限したり、手洗い・うがい、アルコール消毒、人と距離をとって接する等の感染防止策を今まで以上に講じながら、活動を続けています。

うがい、手洗い、手指消毒、マスク着用の徹底。施設全体の消毒。
参加人数を減らし、マスクの着用と、手指の消毒を徹底しました。
毎日の体温の計測記録。 対面する机にパネル等を設置。 共有する用品等の使用後は随時消毒。
施設利用者への自粛願、密閉・密集・密接を避け、マスク着用、手洗いの慣行
ウイルスに対する対策（マスク、手洗い、消毒、換気、健康チェック、体温）を行い、予防に努める。又、マスク不足のためマスク製作に取りかかっている。
総会、毎月の定期大会は、健康チェックとマスク使用と三密対策を実施
利用者の体調確認、衛生管理の徹底、在宅での活動支援
現在、毎年恒例の発達障害への啓発展示を主催しているが、お知らせとして、無理な参加はお控えください、と呼び掛けている。

【情報収集】

情報の取得などで対処していくしかないと考えます。
企業活動などの情報を収集し、早めの判断に生かしている。

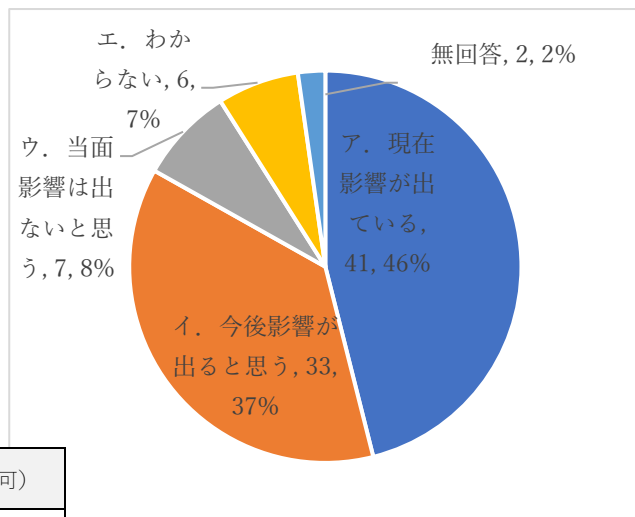
【その他】

工夫してもダメ。支援なし。
とりあえず待機できる2名には自宅待機をお願いしている
①研修講師より講義資料をいただき、参加予定者に配布。 ②売り上げ減に対し新規顧客顧客確保に向け情報収集及びアプローチ。共同作業場入室については事業継続計画（BCP）を参考にコロナ感染防止及び発症後の対応策を作成。
ホームページ等での寄付集め
人を呼ぶ工夫はしていません。感染拡大を防ぐため、来なくても楽しめるようにエア博物館のような取り組みを進めたいと思います。
利用者の時短や自宅待機など
活動しない。
当面の活動を自粛
1.3役(まちづくり協議会会長・自治会長・公民館長)で方針を出し、委員には書面決議 2.事務局に説明し納得感を得させるまちづくり協議会事務局(公民館長他事務員)を週に2回啓蒙し下記内容の話をする。 ①共助交通、防災、地球温暖化対策、SDGsなどの話をし、情報共有する。 ②公民館報に各種コラムを掲載し、住民に広報する ③まちづくり協議会規約の改正案の作成しこれらの事業が実施できるようにする。④コロナ禍が収まったら直ぐに実行できるよう企画書の作成と、人事配置を決めておく。
特になし。人の集まりあつての事業なので、決めて話し。待ちの姿勢。5月末のNPO法人としての総会も書面会議とせざるを得ないか。
本部の指示により、当面中止せざるを得ない。再開については、本部指示による。
協力して穴埋めを行う
開催できないので特になし

(2) 組織の運営や法人経営に影響が出ていると回答した団体は47%、今後影響影響がでるだろうと回答した団体は38%だった。また、影響が出ている具体的な内容の42%が「理事会・総会等の実施」、次いで「人件費の支払い」が20%であった。

■組織の運営や法人経営に影響が出ていますか。

現在影響が出ている	41 (46%)
今後影響が出ると思う	33 (37%)
当面影響は出ないと思う	7 (8%)
わからない	6 (7%)
無回答	2 (2%)
n =	87



組織運営で「現在影響が出ている」具体的な内容 (複数回答可)	
理事会・総会等の実施	34 (42%)
人件費の支払い	16 (20%)
事業報告書、等、各種報告事務	9 (11%)
固定費の支払い	8 (10%)
スタッフの確保	6 (7%)
その他	8 (10%)

■「現在影響が出ている」を選択された方にお尋ねします。具体的な影響の内容を教えてください。(複数回答可)

【NPO 法人のみ】組織運営で「現在影響が出ている」具体的な内容 (複数回答可)	
理事会・総会等の実施	25 (44%)
人件費の支払い	11 (19%)
事業報告書、等、各種報告事務	6 (10%)
固定費の支払い	6 (10%)
スタッフの確保	4 (7%)
その他	5 (9%)

〈組織の運営や法人経営に関する具体的な影響の内容〉

【総会・理事会】

理事会の開催場所の変更
総会の実施方法の変更
年度頭の総会関係が、全県地区部会単位ですべて中止とした。
打合せ会・理事会・総会等の会議の開催ができない
総会の自粛
総会の集まりを中止予定
総会等、開催の検討、役員の健康状態
総会、理事会、監事会の予定が未定。 特に監事会は領収書なども見ていただかないといけないため、開催できるのかどうか……。
総会の実施困難
総会は、すでに終了しており、問題はないが、理事会の開催ができないことから、重要事項の決定が先延ばしになってしまう。県への報告事務、法務局への登記事務など通常より時間を要している。県の行政財産を事務所に借りているが、施設が閉鎖になるので、各種事務作業が停止することになる。
日々状況が変わるため、理事会を開きたいが、集まることもあまりしたくない。
5月中旬～下旬に予定している通常総会を開催するか否か
遠隔地に住む理事がほとんどなので、日ごろから集まることが難しい。理事会や総会が貴重な対面の間だったが、今年はそれも叶わなくなった。
通常総会を5月に予定しているが、どうしたらよいかわからない。
今後、西部管内に感染者が出た場合は総会等中止せざるを得ないと考えています。
スタッフで集まることも難しくなっている。年度初めに総会を開きたかったが、メールで議案を送り意義なければ承認されたということにしようと考えている。
書面決議では納得感が得られないリスクがある

【スタッフ・従業員について】

全体職員会の延期（今後の状況により、また延期の可能性あり）
家庭の事情で大阪に行った職員を、米子に戻ってから2週間休んでもらった。
感染が落ち着くまでパートさんのお仕事をお断りしています。
スタッフのシフトの組みなおし、自宅待機

【収入】

収入が無い。
収入がなくなってしまった
収入がなく、運営経費が払えなくなる。
カフェの利用の減、菓子の売上の減
予定していたイベント等がすべて中止となり収入減につながっている

開催できないので運営費収入がない
福祉優勝運送の利用制限で利用収益が減収になっている
利益なく動くほど赤字。
箱作り（観光地向けのおみやげの箱折り）の注文が全くなくなって困っている。（月 10 万の収入がだめ）
販売が激減しているため収入減となって継続が難しくなっています。
稼働日数、利用人数の減少による収入減
利用自粛による自宅待機やそれに伴う体調不良による通所利用減に伴う給付費収入減の懸念。

【委託事業】

人を外部から連れてくる事業が多いので、委託内容について協議が必要。状況によっては契約額の減額もありうる。
--

【コミュニケーション】

「例会」と称する事業の具体的打ち合わせ、コミュニケーションなどが図れない。

【その他】

事務局や実行委員との直接擦り合わせが出来ないので、報告書、申請書等の書類作成は 1 人で在宅でやっている。
事務作業（ロッカー）のセンターの閉所
運営規定変更を余儀なくした。
会費でイベントを企画しているが、延期が続きイベント実施が不可能な状況で①会費をもらい続ける事が出来るのか。②退会者が増えるのではないか。③活動を休む場合の運営費の捻出方法など、話し合いが必要。
今年度のイベントや理解啓発の為に講演会等を計画しても実施できるか不安です。
NPO 法人縁パワー（えんパワー）より会議運営方法などの支援を受けている。
保育所・幼稚園・子育て支援センターなどへの訪問ができない状況である。
高齢化率が 5 5 % にもなる地域で実施するには、やる気のある人材確保が限られてくる。
補助金だけの運用には限度があり、地域での自己資金づくりをどうすれば良いのか（共助交通等の人件費）

〈組織の運営に関して工夫していること、ルールづくり、受けた支援等〉

【総会・理事会に関して】

従来、総会にて承認していた各項目を、書面による表決や、各個別訪問による表決など工夫している。
今後の感染拡大状況にもよるが、理事会も開催が難しくなれば非対面の議決方法も検討する。
理事会ではマスクの着用、換気しながら開催（回数も減らしている）。また、グループラインで常に情報共有中。
総会は集合できないので、書面決裁方式とした。
書面表決の実施
工夫していること：電磁的理事会・総会の仕組みを整えた。定款には定めていなかったが、急ぎよ、ウェブ会議を取り入れてみようという話が出て、環境を整えつつある。

受けた支援：ウェブ会議が「理事会」「総会」として正式に成立するのかどうかについて、県民活性化センターにご相談し多くの助言をいただいた。

総会は書面決議等での対応を検討中

総会等、書面での決議

総会については、小規模で行い委任状で対応予定。

理事会をメールなどで行う、会計処理等を必要書類を担当者が一時保管するなどの対応を行う。

【コミュニケーションの取り方】

SNS グループでメールのやり取りをしている

メールと電話のみ。

メールでの情報のやり取り

【仕事の方法】

クラウド管理はしているし、もともとリモートワークも子連れ出勤も対応済み

少人数での製作、在宅ワーク、ウェブ販売広告宣伝の準備

オンラインワーク、在宅ワークの実施

随時、必要と思われるスタッフのリモートワークを実施。そのための環境は整えてきました。

【感染予防のための環境整備】

法人の消毒液を職員にも配布し、各家庭で使用してもらい、感染防止してもらっている。

支援の行動範囲を、制限をかけている。

マスク、感染症対策

感染予防対策と利用者支援により、安心して継続して開所できるよう、柔軟な事業所運営。マスク、消毒の徹底など安全の徹底、検温、安全な生活指導。

【その他】

自治体等との連絡を密にし、情報収集に努める

他にごぼう（農作物）作業が入り、何とかしのいでいる。

検討していることは、活動の主となっているエプロンえほん（生まれてきてくれてありがとう・歯みがきの大切さなど）の講話を自宅で過ごすことを余儀なくされている子ども達やお父さんお母さんたちにライブ配信してみようと考えている。

共同作業場入室については事業継続計画（BCP）を参考にコロナ感染防止及び発症後の対応策を作成（再掲）

お弁当等の利用者を増やすなどを、検討しています。

【特になし】

どう工夫してよいか、まだ何もできていない

諦めている。

(3) その他懸念していること

ただでさえ相談する事に躊躇するのに、相談する場が無くなってしまふのは困ると思う。
各所からせっかくいただく予定の助成金、補助金を返金しなくてはいけない。
聖火ランナーも延期、行列もできない。今年度はすべて中止だろう
屋外での自然とのふれあいの減少
保育園を休園することになった場合、1、職員の代替え、給与や保育料の取り扱いはどうなるでしょうか。2、マスクや消毒液は補充してもらえるでしょうか。
職員の休業補償が国、県でどこまで補償してもらえるのか確認したいです。
全てが縮小、延期、中止。鳥取県民、町民がどちらかといえば過剰反応しすぎかなと懸念しています。
人間味のある社会が薄れていってしまったようで将来が思いやられるような気がする。このコロナウィルスによる”自粛”によってあらゆる活動が委縮するのではないかと心配している。
当事業所からウィルス患者が出ないよう、自分が患者かもしれないという意識を持って徹底的に衛生管理に全力を尽くしているが心配である。
今後、いつまで続くのか見通しが立たず、収入がない中でクラブがいつまで持つのか不安です。
ICTを活用した取り組みが増えるだろうと思いますが、実際に zoom を使ってみると利用（参加）する方がとても少ないこと。もし休校が始まったり、自宅自粛となったときの、子どもや大人のストレス。
居場所を求めている子どもたちがいるが、居場所となる場所の確保に苦労している。
収束が見えない。
触れあうことが多い活動なので、今後消毒用アルコールが手に入らなければ、活動再開も厳しい。
子ども達が健やかに育つために必要な最低限の人権（お友達に会うこと、外で自由に遊ぶこと等）が脅かされていないか心配。子ども達への多大な影響を強いて誰を守っているのか。冷静な判断を願うばかりです。
このまま経済が減退すると販売収入がなくなり家賃の支払いが出来なくなると組織の運営は出来なくなります。
今後、経済活動が停滞することが予想され、当協会に対する寄附金、広告料、会費などが減少するのではないかと不安がある。
県内で発生者が出た時の対応、何をもって収束とするのか。
事業の継続、終息後の人材確保
8月実施予定の夏祭りの開催判断
新型コロナウイルス感染拡大予防策として、「大規模なイベントの自粛」「一斉休校」の要請は感染の連鎖を抑えるためには必要な手立てと思う。ただ、これらの要請への対応は各自自治体に委ねられており、その対応は県・町民目線での総合的な評価を睨んだ取組みが肝要と考える。ただ、休校による子どもや関係者への悪影響、事業中止による県民のストレス増大が懸念される。感染防止策を徹底し、『感染リスク<生徒成長&県民健康づくり』と総合評価の基、休校・中止しないことを徹底的に追求する姿勢が必要。それが仕事である。安易に中止すべきではない。「お上の言うことを聞いて、或いは世間の動向で、安易に物事を決めてしまう様なことがあってはいけない」
事業が計画通りできない場合は、助成金の返還が伴い負の作業が増える。

この状況がいつまで続くのか
職員やその家族が感染した場合の支援体制の確保
開催自粛への大小の圧力もある一方、会って協議できない人たちからの不満(新しい情報に接することができない人など)。また、実施した際の非難も考えられるが、ウェブ会議についても、また接したことがないあるいは拒否感を持つ人などがあり、過渡期にさらされている状態かと思います。ただ、来週にも複数でウェビナー開催を計画しています。4～5人の人からプレゼンを募り、画面共有してプレゼン力の向上を含めてウェブ会議を実施予定。
会員（保護者、支援者、当事者）の健康。コロナだけでなく、心の安定も含めて。
経営の維持が困難になった。
活動できなければ見込んでいた収入は得られず、赤字運営になる
後手後手で腹の座らない政府対応、感染者が出た場合の高齢者への感染拡大と地域社会内の差別的反応
地域に発症者が出たときの各種教室の中止
他団体との情報交換や交流会に参加して、知識や情報を得たり、知り合いを増やしたり、他団体同士を繋げたいという活動趣旨もあるが、直接の機会は当面無さそう。元々思うように活動が進んでいなかったため、コロナだからとは言えない一面もある。
他のNPO法人等で、事業売上により雇用が生まれている団体を心配しています。
鳥取県西部で感染者が確認された場合事業停止
コロナ感染の影響で事業がどこまで実施できるのか不明。
感染症への不安
事業所を閉鎖した場合に国や行政から支援が受けられるかどうか心配する。
協力雇用主さんの経営への影響
今後の見通しが立たない
利用者さん達が、コロナの事で不安定になっています。対応に追われて日々の業務が出来ていない状態です。
利用者の通所に制限がかかれば、長くなると運営が出来なくなり解散も考えないといけない現実に直面している
当団体が支援している障がい福祉サービス事業所自体の運営及び工賃支払いについて、コロナが長引けば影響大。マスクの提供や運営については国、行政の支援等受けられるが、まだ対応に苦慮してる。
入館料の減少
コロナの感染者がスタッフに出た場合、活動の中止、関係場所に迷惑をかけることを心配している。
休業をせざる事となった時の対応
コロナウィルス感染について、市から正確な情報が出ていない。4月11日付けの通知で「当面の間施設利用を控える」とあるが期間が不透明である。
高齢化における、独居生活を送っている方の生活への不安、支障に対して地域支援として、何が出来るか、必要かを考えなければならない。

<p>町の委託料で運営しているが、「活動していないから」と返還若しくは減額にならないかと不安である。実際に公設（営）学習塾の3月分支払いが「塾を開催しなかったから」と60%支払いとなった。（最初は「全額支払わない」との通知を受けたが、スタッフへの給与6割支払いを主張した）」</p>
<p>感染防止の徹底の難しさ。施設外就労が感染予防のためできない。就労B型の事務所だが軽作業の減少。</p>
<p>事業所を閉鎖せざるを得ない状況になった際の対応</p>
<p>このような状況下で、5月には理事会、6月には定期総会を開催する必要があり、開催方法について検討を行う必要がある。</p>
<p>"障がいのある方、ご高齢の～、外国の方の旅のお手伝いをする"というサポートが行えない。</p>
<p>自粛や自宅待機による利用者の心理的变化、活動・取組がPRしにくい</p>
<p>テレワークが困難な業務のため、対応に苦慮</p>
<p>全国的に蔓延している中、利用者、従事者共にかんせんしているかわからないうえに、放課後児童クラブの性質上、密集、密接を避ける事は極めて困難。事業を行う事で生命の危機にさらされている。未だ解明されていない感染症なので、感染しないためにも集う場所は閉鎖するように国や県が指示し、補償をするべきだと思う。</p>
<p>講座や研修などの開催。商品の販売機会の減少。活動全体の縮小。</p>
<p>スタッフに必要な予防のための物品の不足、予備がなくなっている。</p>
<p>新型コロナウイルス症の影響で社会の有り方が大きく変わる事。</p>
<p>感染の拡大によるさらなる自粛</p>